

NEWS RELEASE

平成 21 年 11 月 9 日

高齢の親を持つ子ども(45～64 才)の親の高齢化・介護に関する意識調査

株式会社電通では超高齢社会になるなかで、高齢の親を持つ子どもの視点にこれまであまり焦点があたりなかった親の介護に関する調査を 2009 年 9 月末実施しました。

75 歳以上人口が全人口の 10%を超え「人生 100 年時代」と言われるなか、高齢の親をもつ 45 歳以上の男女 800 名の、親が高齢になることに対する心配や不安、万一介護が必要になったときの備え、さらには自分が老いることへの不安など、高齢化がすすむ中での、親に関する意識や行動などを明らかにしました。

調査結果からは、

■自分の加齢とともに親への心配が強くなり、92%が親のことを気にかけている。

■親の介護への自覚はあるが備えなし。

- ・ 54%が親に介護の必要があれば「自分」を頼りにすると考えている。外部サービスを使いながら、面倒をみる覚悟あり。万一介護が必要になったら、男性の 57%はお金のことを、女性の 64%は自分の生活を変えなければならないことを心配している。但し、75%が介護知識が十分でないと感じている。また、月 2 万円くらいであれば、親のために負担してもよいと自らも負担する心構えもみられる。年齢層が高くなるほど親のために負担する金額が増える傾向がある。

■週一コミュニケーションが基本。1時間以内の近居では 6 割が週 1 回以上連絡をとりあっている。

■72%が高齢の親の消費に積極的に関与する。

娘は健康やファッション、息子は OA 機器などの日常生活の相談相手になっている。

【調査結果のポイント】

I. 親子関係で、今心配していること

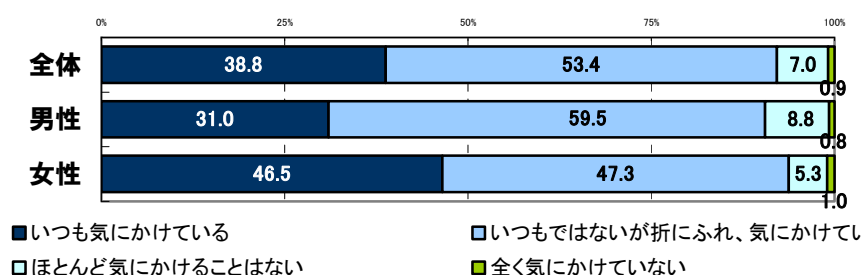
◆87%が老いることに不安を抱いているが、不安の中味は、自分と親の「健康」、「病気」、「介護」。

- ・ 87%が「自分が老いることへの不安」を感じている。
- ・ 不安の具体的な内容は、「自分の親の病気や怪我」(96%)、「自分の親に介護が必要になること」(95%)、「自分の健康が損なわれること」(95%)や「配偶者の健康が損なわれること」(93%)など。自分や妻のこと以上に親のことを心配している。

◆92%が親のことを気にかけている。

- ・ 「いつも気にかけている」は女性が男性より 15.5 ポイント高い。

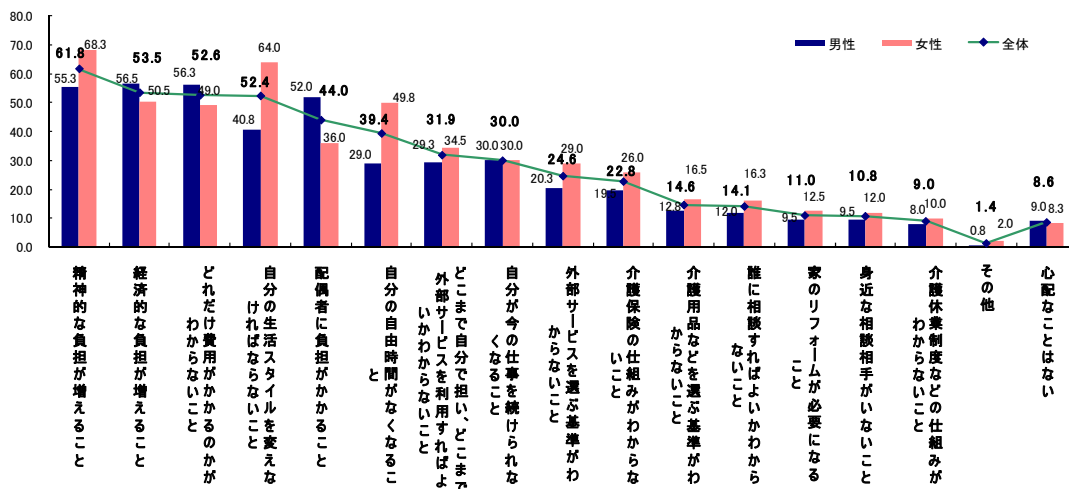
親のことを気にかけている人の割合



II 具体的に気にしていること

- ◆親が高齢になり不安なことは、「寝たきり」になること。但し、54%が、親は自分を頼りにすると思っている。自分より年上の兄弟がいても41%が親が頼りにするのは「自分」だと思っている。
 - ・親が高齢になり不安なことは、「病気で急に倒れること」(68%)、「認知症になること」(65%)、「親に介護が必要になること」(59%)、「外出先や室内での転倒」(53%)など。予期せぬ出来事で寝たきりになることを恐れている。但し、親が倒れたときは、54%が「自分を頼りにするだろう」と自覚している。
- ◆75%が「介護知識が十分でない」と認識。情報源は行政、専門家介護が中心だが、マスメディアも活用。
 - ・75%が「介護に関する知識が十分でない」と認識。要支援や要介護の親をもつ人でも72%が「十分でない」と感じている。
 - ・「普段テレビなどで高齢者や介護に関する番組があると注目して見ている」人は45%いるものの、「介護についての本や情報を調べている」、「介護サービスや施設についての情報を集めている」はともに27%、「自治体やNPOなどが開催する介護講座やミーティングに参加している」は7%に留まっている。
 - ・介護情報は、「行政窓口」、「ケアマネ・介護福祉士などの専門家」を情報源としているが、現在、要支援・要介護の親をもつ人では、「テレビ番組」や「新聞の記事」などマスメディアの情報も活用している。
- ◆万一、介護が必要になったら、精神的負担が増えることに加え、男性は「お金のこと」、女性は「生活変化」を心配
 - ・親に介護が必要になることで心配なことは、「精神的負担増」(62%)、「経済的負担増」(54%)、「どれだけ費用がかかるかわからないこと」(53%)、「自分の生活スタイルを変えなければならないこと」(52%)など。男性は経済的な負担を心配し、女性は精神的負担や自分の生活変化を心配している。

親に介護が必要になったとき心配なこと



III 親子のコミュニケーションと親について知っていること

- ◆週1コミュニケーションが基本。近居では6割が週1回以上連絡をとりあっている
 - ・54%が、親と、電話やメール・会話を通じて、「週1回以上」連絡をとりあっている。今回の対象者の親との住まい方は、同居21%、近居39%、遠居39%であるが、年齢が若くなるに従い、近居の割合が高くなる。近居では60%が「週1回以上」連絡をとっている。遠居でも月1回以上が62%、そのうち月1~3回程度が36%。
- ◆親について知っていること
 - ・相続を6割が不安に思っているが、親の預金や資産について知っている人は2割程度に留まる。
 - ・父親の健康上の問題点を知っている」は72%、「母親のかかりつけ医師や病院を知っている」も65%。
 - ・健康関係、好きな食べ物、菩提寺などについては半数以上が知っている。

IV 親のこゝと支援市場拡大の兆し

◆超高齢社会に対応した、「日常型の健康維持・生活支援のための商品・サービス」にニーズあり

- ・ 72%が親の消費に積極的に関与する意志を示している。
- ・ 69%が日常生活のなかで何らかの相談を受けた経験を持っている。
- ・ 息子より娘のほうが相談を受けており、娘は、親の健康状態、ファッション、携帯電話についての相談を受け、息子は OA 機器や家まわりについての相談を受けている。なお、家電製品の選び方は娘、息子関わらず相談を受けている。
- ・ 親のためにすすめたい商品・サービスは、「病院と家をつなぐ送迎サービス」(38%)、「低価格で加入できる親のための民間介護保険」(33%)、「高齢者対象の緊急対応サポートサービス」(31%)に加え、「食が細くても十分な栄養が取れる食品」(29%)、「地域全体で老人を見守る地域コミュニティサービス」(27%)、「親のこゝとを何でも相談できるインターネットサイト」(26%)、「日常の掃除・洗濯・買い物を手伝ってくれる家政婦派遣サービス」(25%)など。高齢の親に対応した日常型の健康維持・生活支援のための商品・サービスにニーズがみられた。

親のためにすすめたい商品・サービス

ジャンル	商品・サービス名	%	ジャンル	商品・サービス名	%
見守りサービス系	病院と家をつなぐ送迎サービス	38.3	コミュニティサービス系	地域全体で老人を見守る地域コミュニティサービス	26.8
	自宅で遠隔治療が受けられる医療サービス	18.5		誰もが自由に利用できる地域の茶の間の空間	21.4
	センサーで親の様子を感知する24時間見守りサービス	16.1		地域単位での食事提供サービス	19.0
	GPSなどによる見守りができる携帯電話	13.3		頭・からだ維持系	からだ、脳、こゝろ、トータル健康維持管理サポートサービス
緊急サポート系	低価格で加入できる親のための民間介護保険	32.9	脳の老化を防ぐ画期的な脳トレ商品		19.9
	高齢者対象の緊急対応サポートサービス	30.5	自宅で簡単な健康チェックが受けられる健康診断サービス		19.4
	親が認知症になったときの後見人サービス・後見人代理サービス	13.3	親の老化の進行度合いをチェックする、老化黄信号チェックリスト		14.8
日常生活サポート系	食が細くても十分な栄養がとれる食品	29.0	筋肉や骨の老化を防ぐ筋トレ商品		13.6
	日常の家事を手伝ってくれる家政婦・御用聞きサービス	25.0	人間ドックや健康診断がうけられる健康ギフト券	11.5	
	高齢者のからだの気になる症状に対応した配食サービス	24.0	その他情報サービス	親のこゝとを何でも相談できるインターネットサイト	25.6
	散歩同行やお話相手サービス	13.8		介護に関する有益な情報や仲間づくりができる雑誌や番組	12.8
	メンテナンスのいらぬ家電用品	12.9			
	からだの衰えを感じさせないユニバーサルデザイン商品	11.3			

■電通「親のこゝと／自分のこゝと調査」

◇調査地域：全国

◇調査対象：高齢の親をもつ 45～64 歳男女

◇調査対象者数：800 名

◇調査方法：インターネット調査

◇調査期間：2009 年 9 月

◇調査実施機関：ヤフーバリューインサイト

◇回答者プロフィール

・高齢の自分の親をもつ 45～64 才 800 名 : 男性 400 名 女性 400 名

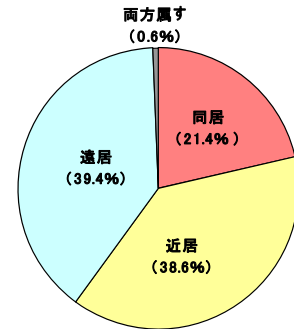
: 45～49 才 200 名 50～54 才 200 名 55～59 才 200 名、60～64 才 200 名

親の年齢

(自分の父親あるいは母親、配偶者の父親、母親のすべてを含む)

	対象者数	64歳以下	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
全体	800	1.3	6.3	22.6	39.1	71.4
45～49歳	200	4.0	19.5	60.5	67.0	28.5
50～54歳	200	0.5	3.5	27.0	60.0	68.5
55～59歳	200	0.5	1.0	3.0	22.5	89.5
60～64歳	200	0.0	1.0	0.0	7.0	99.0

親との住まい方



親の健康状態

本人の年齢	対象者数	本人の親の健康状態			配偶者の親の健康状態			
		二人健康	どちらか一人要支援あるいは要介護	二人とも要支援と要介護	二人健康	どちらか一人要支援あるいは要介護	二人とも要支援と要介護	配偶者の親がいない
全体	800	66.3	7.1	26.6	41.3	4.0	12.5	42.3
45～49歳	200	79.5	7.5	13.0	57.5	5.0	8.0	29.5
50～54歳	200	75.5	9.0	15.5	48.5	5.0	10.5	38.0
55～59歳	200	63.5	7.0	29.5	35.0	5.0	17.5	42.5
60～64歳	200	46.5	5.0	48.5	24.0	1.0	14.0	61.0

お問い合わせ先

株式会社 電通 プロジェクトプロデュース局

ソーシャルビジネス室シニアビジネス推進部 (明石、大村、斉藤)

(TEL:03-6216-8048 FAX:03-6217-5952)